

富士山における利用者負担制度の在り方について 利用者負担専門委員会WGの検討内容

現行制度の課題（利用者負担のあるべき姿の検討）

背景 富士山の価値を維持継承していくためには、利用者の金銭的負担が必要だとの意見があり、登山者アンケート結果でも、利用者の約8割が全員からの負担に賛成。

理念 「富士山の普遍的価値を後世に継承する意識醸成」という制度の理念に、「受益者負担」の概念を加える。

○公平性の確保

払わなかった人への不平等感の解消
(協力率60%程度)

○新たな登山者ニーズへの対応

- ・落石等への安全対策、登山前レクチャー
- ・噴火対策 など

(利用者負担専門委員会WGについて)

第16回世界文化遺産協議会作業部会(H31.3.16)及び第7回利用者負担専門委員会(H31.2.6)で継続審議が必要とされた事項について検討するため、ワーキンググループを設置し検討を行っている。

- ・構成委員 加藤峰夫(公園利用) 山本清龍(公園利用) 花岡利幸(観光交通) 岩崎政明(租税法)
- ・開催実績 ①令和元年6月20日、②令和元年7月31日、③令和元年9月5日

課題

具体的検討事項

H30作業部会・専門委員会課題(総括)

制度・金額等

(制度・対象)
・五合目観光客も含め、広く集める制度の可能性
・任意の支払いでは不公平感がある。すべての来訪者が払う制度の可能性

(協力金額)
・徴収金額千円の妥当性が曖昧、調査等による、今後の協力金額の検討

(徴収方法・コスト・事業範囲)
・徴収コストが過大、コスト抑制方法の検討
・五合目以下の事業への充当の可能性

使 途

・公衆トイレの維持管理への協力金充当による無料化(チップ一体化)の可能性

そ の 他

- ・両県に基金があり用途が違う。将来の一体化の可能性
- ・五合目以下の倒壊した山小屋等の処分への充当の可能性。
- ・弾丸登山を抑制するため、24時間受付の是非

WG 検討状況

意見・協議内容

○現在、任意の寄付金として集めているが、すべての来訪者に公平な負担を求める制度が必要ではないか

- 例)
- ・五合目より下
例) 山梨:富士スバルラインの通行料に上乗せ
静岡:各道路へ徴収場所整備
 - ・五合目超
例) 山頂付近での徴収

○山小屋トイレの収支状況の把握は困難なため、公衆トイレの無料化を検討し、協力率の向上を図ることが可能か。

○公衆トイレサービス提供による利用料としての可能性

- ・将来的には一体的な管理が必要
- ・倒壊した山小屋の処分は可能か
- ・ネットでは24時間受付を実施 平日の夜間早朝は受付実施なし

課 題

(制度・対象)
・すべての来訪者が支払う制度の根拠への理解
・対象者の捕捉の確実性

(協力金額)
・新たな登山者ニーズも含めた財政需要の把握
・サービスの対価としての負担を求める金額設定

(徴収コスト・事業範囲)
・二段階で実施した場合の徴収コスト負担増(静岡側)

・無料トイレの運営方法(協力しなかった人も無料で利用できるのでは協力率の向上は見込めない)。

・無料化する際、協力金額の増の是非(増とした場合、協力率の減が想定される)。

・現在両県が別に管理しており一体的な管理の課題を整理する。

・山小屋等に所有者があり、所有者が撤去が原則、公共機関の撤去は難しい。

・徴収効率等を勘案した上で受付時間、方法等を検討する。

今後の検討事項

◎ 利用者の公平な負担も加味した、すべての来訪者が支払う制度への移行

- ・対象者、協力金額、徴収方法、関係者との調整や徴収コスト(徴収場所の新設)、対象事業の洗い出し等の検討。

◎ 公衆トイレチップと協力金の一体化

- ・トイレ利用の公平性や協力金額の増の是非について検討。
- ・トイレサービスとしての徴収の可能性の検討

◎ 徴収コストの低減と捕捉率の向上の両立

◎ 各課題を引き続き検討

公平でわかりやすい制度の実現